

● 「読み・書き・計算」「問題解決力」を期待

日本

Q. あなたは以下にあげるそれぞれの項目について、学校の目的としてどの程度重要だと思いますか。

学校の目的として何を重視するかは、「学校に何を期待するか」によって異なる。下表では、回答者が23の項目のうち、どの項目にプライオリティを置いて学校教育に期待しているかを示している。

どの属性でも重要視されていたのは「読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる」こと、「自ら考え、問題を解決できる人間を育てる」ことであった。広い意味での応用力に結びつく、堅固な基礎力を身につける場所が学校であるという認識が表れている。

この二つの要素の優先順位は「学校関係者」と「塾・予備校等の教員」「保護者」の間で異なる。また、「高校生」では「生きる基盤となる常識や幅広い教養を身につけさせる」を重視する回答者が最も多いことも興味深い。

一方、プライオリティの低い項目は「国家の競争力を高めるために必要な人材を育てる」「企業家精神を育む」等であり、教育を通じた国家・社会への貢献を学校の主要な目的と考える傾向は弱いことがわかる。

図表 2-1 学校の目的としての重要度

(順位とパーセンテージ)

	学校関係者	塾・予備校等の教員	保護者	子どものいない男女	高校生
読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる	1 (89.3)	2 (73.9)	2 (79.0)	4 (69.0)	5 (61.0)
自ら考え、問題を解決できる人間を育てる	2 (83.0)	1 (82.6)	1 (81.0)	1 (72.0)	2 (65.0)
すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する	3 (82.1)	4 (71.7)	6 (65.0)	6 (64.0)	3 (63.0)
協力して物事に取り組むことを教える	4 (81.3)	5 (63.0)	3 (69.0)	9 (58.0)	8 (53.0)
目的に向かって自らを律し、粘り強く努力することができるようとする	5 (75.9)	9 (58.7)	9 (58.0)	10 (51.0)	10 (50.0)
生きる基盤となる常識や幅広い教養を身につけさせる	6 (74.1)	5 (63.0)	3 (69.0)	5 (66.0)	1 (69.0)
児童・生徒が安心して過ごすことのできる場を与える	7 (70.5)	2 (73.9)	5 (68.0)	2 (71.0)	4 (62.0)
基本的な行儀作法や生活習慣を身につけさせる	8 (68.8)	10 (50.0)	8 (59.0)	7 (62.0)	5 (61.0)
知識を応用する能力を身につけさせる	9 (67.0)	7 (60.9)	7 (63.0)	3 (70.0)	9 (52.0)
刺激に満ちた豊かな子ども時代・青春時代を送れるようにする	10 (54.5)	7 (60.9)	11 (51.0)	8 (60.0)	7 (58.0)
社会に出て、職業人として成功するための基礎を築く	11 (51.8)	15 (30.4)	12 (49.0)	12 (42.0)	10 (50.0)
伝統や文化を伝承する	11 (51.8)	11 (45.7)	16 (36.0)	17 (33.0)	17 (25.0)
科学・技術に対する興味・関心を促進する	13 (49.1)	12 (43.5)	10 (52.0)	11 (48.0)	13 (33.0)
堅実で、調和のとれた生活を送るための基礎を築く	14 (47.3)	13 (39.1)	14 (39.0)	14 (38.0)	16 (31.0)
将来、よい父親、母親になれるようにする	15 (42.0)	14 (32.6)	17 (35.0)	13 (39.0)	12 (39.0)
国家や故郷を愛する心を育む	16 (38.4)	19 (23.9)	20 (23.0)	22 (23.0)	20 (19.0)
優れた能力を持った人材を育てることを通して国に貢献する	16 (38.4)	17 (26.1)	21 (17.0)	18 (26.0)	22 (15.0)
社会的背景に関わらず全ての児童・生徒が高等教育を目指せるよう促す	18 (32.1)	17 (26.1)	13 (48.0)	15 (37.0)	13 (33.0)
変化の激しい社会を生きる術を身につけさせる	19 (31.3)	16 (28.3)	15 (38.0)	16 (35.0)	13 (33.0)
社会から取り残される者がないよう保証する	19 (31.3)	21 (10.9)	18 (27.0)	20 (24.0)	19 (20.0)
結束力の強い、民主的な社会を形成するための人間を育てる	21 (30.4)	20 (15.2)	19 (25.0)	20 (24.0)	18 (22.0)
国家の競争力を高めるために必要な人材を育てる	22 (17.9)	21 (10.9)	21 (17.0)	18 (26.0)	21 (16.0)
企業家精神を育む	23 (8.9)	23 (6.5)	23 (15.0)	23 (15.0)	22 (15.0)

※「非常に重要である」(7点)～「まったく重要でない」(1点)の7段階で評定。

パーセンテージ：7点～6点と答えた回答者の割合。

順位：パーセンテージの高さの順（属性別）。



「基礎力」「協調性」の育成、「教育の機会均等」を評価

日本

Q. あなたは、日本の学校は以下にあげる事柄をそれぞれどの程度達成できていると思いますか。

下表は、「学校の目的」としてあげた項目と同様の項目について、現在の学校がどの程度達成できていると考えるかを尋ねた結果を示したものである。それによると、「学校の目的」として最も重要視されている「読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる」に対する評価は比較的高い。一方、同じく目的として重要視されている「自ら考え、問題を解決できる人間を育てる」や「すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する」等については、現状が期待に追いついていないことがうかがわれる。

また、目的の重要度としては全体で5位の「協力して物事に取り組むことを教える」、16位の「社会的背景に関わらず、すべての児童・生徒が高等教育を目指せるよう促す」が、達成度の評価ではそれぞれ2位・3位となっており、学校教育の内容面での需要と供給とが必ずしも合致していないことを示唆している。

図表 2-2 現在の学校における達成度

(順位とパーセンテージ)

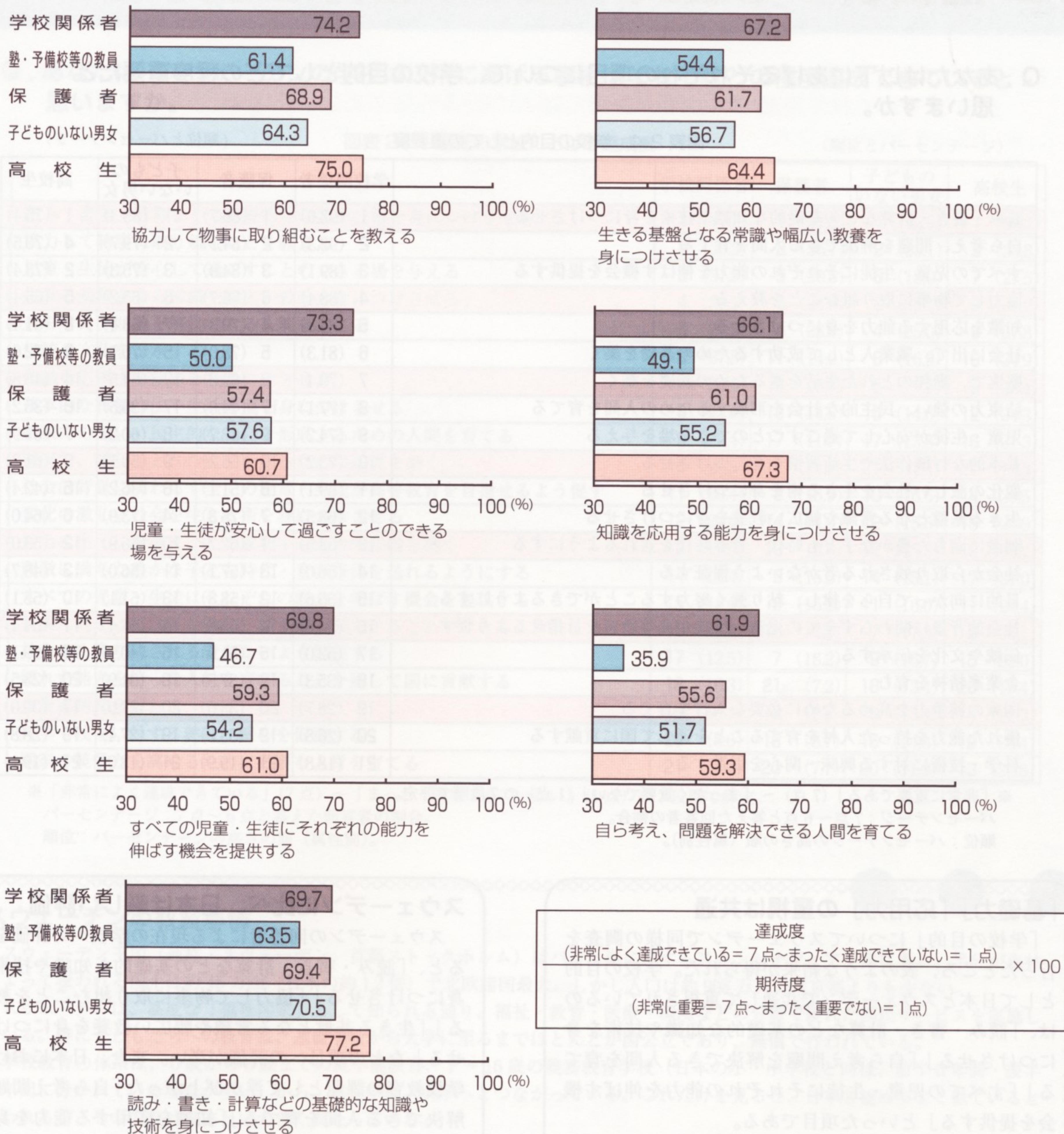
	学校関係者	塾・予備校等の教員	保護者	子どものいない男女	高校生
読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる	1 (27.7)	1 (17.4)	1 (19.0)	1 (19.0)	1 (22.0)
協力して物事に取り組むことを教える	2 (25.0)	5 (6.5)	2 (15.0)	3 (7.0)	2 (19.0)
児童・生徒が安心して過ごすことのできる場を与える	3 (24.1)	5 (6.5)	5 (7.0)	3 (7.0)	4 (11.0)
社会的背景に関わらず全ての児童・生徒が高等教育を目指せるよう促す	4 (20.5)	1 (17.4)	3 (8.0)	2 (11.0)	4 (11.0)
すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する	5 (13.4)	7 (4.3)	3 (8.0)	13 (5.0)	3 (12.0)
基本的な行儀作法や生活習慣を身につけさせる	6 (11.6)	13 (2.2)	17 (3.0)	10 (6.0)	4 (11.0)
生きる基盤となる常識や幅広い教養を身につけさせる	7 (10.7)	13 (2.2)	10 (4.0)	3 (7.0)	4 (11.0)
目的に向かって自らを律し、粘り強く努力することができるようとする	7 (10.7)	7 (4.3)	10 (4.0)	10 (6.0)	12 (7.0)
堅実で、調和のとれた生活を送るための基礎を築く	9 (9.8)	7 (4.3)	9 (5.0)	19 (3.0)	12 (7.0)
科学・技術に対する興味・関心を促進する	10 (8.0)	4 (8.7)	5 (7.0)	18 (4.0)	12 (7.0)
社会に出て、職業人として成功するための基礎を築く	11 (7.1)	13 (2.2)	20 (2.0)	3 (7.0)	9 (8.0)
社会から取り残される者がいるよう保証する	11 (7.1)	3 (10.9)	20 (2.0)	22 (1.0)	18 (4.0)
刺激に満ちた豊かな子ども時代・青春時代を送れるようにする	13 (6.3)	22 (0.0)	8 (6.0)	22 (1.0)	9 (8.0)
変化の激しい社会を生きる術を身につけさせる	13 (6.3)	13 (2.2)	10 (4.0)	13 (5.0)	12 (7.0)
国家や故郷を愛する心を育む	13 (6.3)	22 (0.0)	17 (3.0)	10 (6.0)	21 (3.0)
知識を応用する能力を身につけさせる	16 (5.4)	13 (2.2)	10 (4.0)	3 (7.0)	9 (8.0)
結束力の強い、民主的な社会を形成するための人間を育てる	16 (5.4)	7 (4.3)	10 (4.0)	20 (2.0)	17 (5.0)
自ら考え、問題を解決できる人間を育てる	18 (4.5)	13 (2.2)	5 (7.0)	3 (7.0)	8 (9.0)
将来、よい父親、母親になれるようにする	18 (4.5)	13 (2.2)	10 (4.0)	3 (7.0)	18 (4.0)
伝統や文化を伝承する	20 (3.6)	7 (4.3)	10 (4.0)	20 (2.0)	16 (6.0)
国家の競争力を高めるために必要な人材を育てる	21 (2.7)	7 (4.3)	20 (2.0)	13 (5.0)	21 (3.0)
企業家精神を育む	21 (2.7)	13 (2.2)	20 (2.0)	13 (5.0)	18 (4.0)
優れた能力を持った人材を育てることを通して国に貢献する	23 (1.8)	13 (2.2)	17 (3.0)	13 (5.0)	21 (3.0)

※「非常によく達成できている」(7点)～「まったく達成できていない」(1点)の7段階で評定。

パーセンテージ：7点～6点と答えた回答者の割合。

順位：パーセンテージの高さの順（属性別）。

自ら考える力と個性を育てる教育が求められている



図表 2-3 期待に対する現在の達成度

「学校の目的として重視すること」における各属性の上位3項目（P5参照）をピックアップしたところ、上記の7項目となった。各項目に対する期待の高さと達成度の評価が一致していれば、学校教育の内容面での需要と供給とが合致していると見ることができる。上のグラフは、期待の高さに対する現在の達成度をパーセンテージとして算出した結果を示している。それによると、「学校関係者」が最も評価しているのは「協力して物事に取り組むことを教える」こと。他の属性では「読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる」に対する評価が最も高い。逆に「自ら考え、問題を解決できる人間を育てる」は、すべての属性に共通して最も低く、今後に向けた学校教育の課題ととらえられる。



社会よりも個人のための教育を志向

スウェーデン

Q. あなたは以下にあげるそれぞれの項目について、学校の目的としてどの程度重要だと思いますか。

図表 2-4 学校の目的としての重要度

(順位とパーセンテージ)

	学校関係者	保護者	子どものいない男女	高校生
読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる	1 (93.6)	1 (86.7)	1 (85.3)	1 (75.4)
自ら考え、問題を解決できる人間を育てる	2 (92.3)	2 (84.1)	2 (79.7)	4 (70.5)
すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する	3 (89.1)	3 (84.0)	3 (75.3)	2 (73.4)
協力して物事に取り組むことを教える	4 (88.4)	6 (76.7)	6 (65.2)	5 (65.4)
知識を応用する能力を身につけさせる	5 (86.8)	4 (79.3)	7 (63.4)	8 (61.4)
社会に出て、職業人として成功するための基礎を築く	6 (81.3)	5 (78.0)	5 (70.1)	3 (72.6)
堅実で、調和のとれた生活を送るための基礎を築く	7 (79.4)	8 (69.8)	12 (54.5)	14 (46.8)
結束力の強い、民主的な社会を形成するための人間を育てる	8 (77.1)	17 (44.0)	17 (35.5)	16 (35.2)
児童・生徒が安心して過ごすことのできる場を与える	9 (74.2)	9 (68.7)	8 (60.2)	7 (61.9)
基本的な行儀作法や生活習慣を身につけさせる	10 (73.2)	10 (66.2)	9 (59.1)	9 (61.2)
変化の激しい社会を生きる術を身につけさせる	11 (69.1)	16 (51.1)	16 (36.2)	15 (42.4)
生きる基盤となる常識や幅広い教養を身につけさせる	12 (68.5)	7 (75.3)	4 (73.9)	6 (64.0)
刺激に満ちた豊かな子ども時代・青春時代を送れるようにする	13 (58.5)	11 (62.7)	10 (56.9)	12 (53.0)
社会から取り残される者がいるよう保証する	14 (56.0)	13 (57.1)	11 (56.0)	13 (48.7)
目的に向かって自らを律し、粘り強く努力することができるようになる	15 (55.6)	12 (58.8)	13 (51.1)	10 (55.1)
社会的背景に関わらず全ての児童・生徒が高等教育を目指せるよう促す	16 (54.5)	14 (55.6)	14 (47.4)	11 (54.4)
伝統や文化を伝承する	17 (52.0)	15 (51.9)	15 (40.9)	18 (29.1)
企業家精神を育む	18 (35.3)	18 (37.5)	18 (31.9)	20 (28.5)
国家の競争力を高めるために必要な人材を育てる	19 (28.7)	20 (33.0)	20 (27.0)	17 (30.0)
優れた能力を持った人材を育てることを通して国に貢献する	20 (26.8)	19 (33.2)	19 (27.4)	19 (28.8)
科学・技術に対する興味・関心を促進する	21 (18.8)	21 (19.9)	21 (13.0)	21 (19.1)

※「非常に重要である」(7点)～「まったく重要でない」(1点)の7段階で評定。

パーセンテージ：7点～6点と答えた回答者の割合。

順位：パーセンテージの高さの順（属性別）。

「基礎力」「応用力」の重視は共通

「学校の目的」についてスウェーデンで同様の調査を行ったところ、表のような結果が得られた。学校の目的として日本とスウェーデンで共通して重視されているのは、「読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる」「自ら考え問題を解決できる人間を育てる」「すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する」といった項目である。

また両国とも、学校という場に「優れた能力を持った人材を育てることを通して国に貢献する」「国家の競争力を高めるために必要な人材を育てる」「企業家精神を育む」といった役割を求めていない点も共通している。

日本とスウェーデンの相違点として、スウェーデンでは「知識を応用する能力を身につけさせる」「社会に出て、職業人として成功するための基礎を築く」「堅実で、調和のとれた生活を送るための基礎を築く」を重視する回答者が多いことが注目される。スウェーデンでは、学力と社会生活の基盤に加え、学校を卒業した後の社会人としての生活を見越した教育への要請も強いことがうかがわれる。

スウェーデンに比べ、日本は厳しい評価

スウェーデンの回答者による現在の学校への評価を見ると、「読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる」「協力して物事に取り組むことを教える」「生きる基盤となる常識や幅広い教養を身につけさせる」などの項目への評価が高い。また、日本における学校教育の課題として浮かび上がった「自ら考え問題を解決できる人間を育てる」「知識を応用する能力を身につけさせる」といった側面についてもある程度評価されている。一方、「すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する」や「社会に出て、職業人として成功するための基礎を築く」「堅実で、調和のとれた生活を送るための基礎を築く」といった面で、現状が期待に追いついていないととらえられている。

注目されるのは、日本の回答者による評価の厳しさである。両国のすべての属性に共通して最も高く評価された「読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる」においても、日本の回答者で「7点～6点」をつける割合は3割に満たず、現状の学校教育に対する不満が表れている。



社会人としての生活を見越した教育を期待

Q. あなたは、スウェーデンの学校は以下にあげる事柄をそれぞれどの程度達成できていると思しますか。

図表 2-5 現在の学校における達成度

(順位とパーセンテージ)

	学校関係者	保護者	子どものいない男女	高校生
読み・書き・計算などの基礎的な知識や技術を身につけさせる	1 (47.2)	1 (31.8)	1 (42.9)	1 (56.7)
協力して物事に取り組むことを教える	2 (39.2)	2 (26.7)	2 (25.1)	3 (33.8)
児童・生徒が安心して過ごすことのできる場を与える	3 (31.9)	5 (20.5)	6 (18.0)	7 (27.5)
生きる基盤となる常識や幅広い教養を身につけさせる	4 (30.1)	3 (24.8)	2 (25.1)	2 (36.2)
自ら考え、問題を解決できる人間を育てる	5 (29.5)	4 (23.4)	4 (25.0)	6 (27.8)
伝統や文化を伝承する	6 (27.8)	11 (14.9)	8 (16.9)	10 (24.9)
知識を応用する能力を身につけさせる	7 (24.1)	6 (18.5)	5 (19.7)	5 (28.4)
基本的な行儀作法や生活習慣を身につけさせる	8 (22.6)	13 (14.5)	15 (14.6)	12 (24.3)
結束力の強い、民主的な社会を形成するための人間を育てる	9 (22.4)	17 (11.7)	17 (13.8)	16 (21.3)
堅実で、調和のとれた生活を送るために基礎を築く	10 (20.5)	11 (14.9)	21 (11.4)	21 (19.3)
社会的背景に関わらず全ての児童・生徒が高等教育を目指せるよう促す	11 (20.4)	8 (15.9)	10 (16.6)	4 (29.5)
変化の激しい社会を生きる術を身につけさせる	12 (20.0)	14 (14.0)	12 (15.5)	18 (20.9)
社会に出て、職業人として成功するための基礎を築く	13 (19.5)	16 (12.6)	13 (15.5)	9 (25.7)
刺激に満ちた豊かな子ども時代・青春時代を送れるようにする	14 (18.4)	9 (15.3)	14 (15.1)	17 (21.0)
すべての児童・生徒にそれぞれの能力を伸ばす機会を提供する	15 (18.0)	9 (15.3)	11 (16.0)	11 (24.4)
目的に向かって自らを律し、粘り強く努力することができるようになる	16 (12.5)	15 (13.2)	7 (17.5)	8 (26.1)
社会から取り残される者がいるよう保証する	17 (12.5)	7 (18.2)	9 (16.7)	15 (22.0)
優れた能力を持った人材を育てることを通して国に貢献する	18 (10.3)	21 (7.2)	18 (13.4)	20 (19.4)
企業家精神を育む	19 (10.1)	18 (9.6)	18 (13.4)	14 (22.3)
科学・技術に対する興味・関心を促進する	20 (8.6)	19 (8.7)	16 (14.3)	19 (20.4)
国家の競争力を高めるために必要な人材を育てる	21 (7.6)	20 (7.7)	20 (11.9)	13 (22.8)

※「非常によく達成できている」(7点)～「まったく達成できていない」(1点)の7段階で評定。

パーセンテージ：7点～6点と答えた回答者の割合。

順位：パーセンテージの高さの順（属性別）。

コ ラ ム

スウェーデンの教育事情

スウェーデン王国（通称・スウェーデン、首都ストックホルム）はバルト海に面するスカンジナヴィア半島にある。半分が森林によって覆われる国土は約45万km²（日本の約1.2倍）で北欧諸国最大。しかし人口は約908万人で東京都よりも少ない。

スウェーデンは、高度な「福祉国家」として知られる通り、福祉・教育・医療・環境などの分野で優れた国民サービスを実施している。特に子どもたちへの教育は、基礎学校から大学に至るまでほとんどが国公立であり、無償で行われている。

学校教育の体系は、0歳から6歳までの就学前教育、7～16歳の義務教育学校（日本の小・中学校と同様、前半6年間・後半3年間に分かれている場合が多い）から、高等学校、大学へつながっている。これだけを見ると、日本と極めてよく似ていると思われるが、その内容は日本とは大きく異なっている。

まず7～16歳の9年間の義務教育期間中に、成績評価があるのは2回だけ。8年生になってはじめて手渡される成績表は高校進学の判定材料にするためのもので、それまでは成績表がないのが一般的だ。しかし学習到達度に関する確認は、通常8月末から12月末までの秋学期と1月から6月までの春学期の年2回、三者面談で入念に行われる。このとき、教師のすすめによって自発的に留年を希望する親子も少なくない。一つひとつの学習課題をしっかりと理解して進級しなければ教育を受ける意味がない、という意識が強くあるからだ。ちなみに学習塾や補習塾は存在しない。

日本の高校に相当する後期中等教育過程では、志望する進路に応じた多様なプログラムが展開されている。ここでの「学び」は資格や学歴のためではなく、社会の一員として生きていくために真に必要な「力」を身につけるためのものであり、国民一人ひとりが個性と能力に応じて確かな学力を身につけていくことが、再び社会全体に還元されるようなシステムが機能している。

スウェーデンの教育を概観するときのもう一つの大きな特徴は、体系的な成人教育、生涯教育の存在である。国民一人ひとりのQOL（生活の質）を持続的に発展させていくために、各種の「学びの場」が成人してからも常に生活の隣に存在している。こうしたきめ細かなケアシステムと、個人を尊重し、互いに違いを認め合って共生する成熟した市民社会の存在があってはじめて、教育に対する国民の高い信頼感と、教育効果が生まれるのかもしれない。

（参考文献：『スウェーデン 自律社会を生きる人びと』岡沢憲美・中間真一編著 早稲田大学出版部／『スウェーデンにみる個性重視社会』二文字理明・伊藤正純編著 桜井書店）